

平成二十九年度

## 共通選抜 全日制の課程

二  
國  
語

注意事項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
  - 2 問題は **問五** まであり、1ページから13ページに印刷されています。
  - 3 答えは、解答用紙の決められた欄に、記入またはマークしなさい。
  - 4 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
  - 5 マークシート方式により解答する場合は、その番号の○の中を塗りつぶしなさい。
  - 6 解答用紙にマス目（例：）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。入れなさい。
  - 7 終了の合図があつたら、すぐに解答をやめなさい。

受 檢 番 号

番

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の1～4の各文中の——線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代かなづかいで書きなさい。

1 大事な試合で勝利に貢献した。

2 少数の企業により市場の寡占が進む。

3 作成した冊子を颁布する。

4 学習に取り組むことの大切さを諭す。

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字で表したとき、その漢字と同じ漢字が使われている熟語をそれぞれ下から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

a 町の歴史に関するコウエンを聞く。 (1 講話 2 構図 3 時候 4 難航)

b 勝敗をヨソクするのは難しい。 (1 側転 2 測量 3 消息 4 加速)

c 学校のエンカクを調べる。 (1 遠足 2 延期 3 円満 4 沿道)

d 劇団をヒキいて巡業に出る。 (1 卒業 2 率直 3 関連 4 強引)

(ウ) 次の文中の——線をつけた「と」のうち、同じはたらきをするものの組み合わせとして最も適するものを、あとの中から一つ選び、その番号を答えなさい。

友だちと山道を登つていくと山が紅葉に彩られており、山頂から遠くの景色を眺めると、晴れ晴れとした気分になつた。  
ア | イ | ウ | エ |

(エ) 次の俳句を説明したものとして最も適するものを、あとの中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 アとイ 2 アとエ 3 イとウ 4 ウとエ

(著作権上の都合により省略)

片山 由美子

- 1 降り積もった雪で白一色となり、「もののかたち」がわからなくなつた光景を、「まだ」「かたち」のように母音の中でも「ア」の音を多用し、広い雪原を想像させることで印象的に表現している。
- 2 降り積もつた雪に覆われていた世界に、ようやく春が訪れて「もののかたち」がはつきりと現れてきた喜びを、ひらがなを多用しながら、優しくとけている雪を想像させて感動的に表現している。
- 3 雪が降り続いて視界が悪くなつていく中、「もののかたち」が変わるほど雪が積もつてゐるさまを、「雪」「積」の漢字を使用して、雪の固さや冷たさを印象づけることにより絵画的に表現している。
- 4 雪が降り続いて周りが白一色になりつつも、それぞの「もののかたち」がかろうじてわかる状態を、ひらがなを多用しながら、積もつた雪の柔らかさを印象づけることで効果的に表現している。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注) 天保七年の春、小千谷の縮商人芳沢屋東五郎といふもの、商ひのため西国にいたり、ある城下に逗留の間、旅宿の主が話に、「この近在の農人、おのれが田地のうちに病める鶴ありて死にいたらんとするを見つけ、貯へたる人参にて鶴の病を養ひしに、日あらず病癒えて飛び去りけり。さて翌年の十月、鶴二羽かの農人が家の庭近く舞ひくだり、稻二茎を落とし一声づつ鳴きて飛び去りけり。主人おもへらく、『さては去年の長さは一・八メートル以上で丈六尺にあまり、穂もこれにつれて長く、穂の一枝に稻四五百粒あり。主人おもへらく、『さては去年の病鶴、恩に報はんため異国より貯えきたりしならん。何にもあれ、いと珍しき稻なり。』とて領主に奉りけるに、しばらくとどめおかれしのち、そのまま主人に賜はり、『よく養へ。』と仰せによりて、苗のころになつたり、心をつくして植ゑつけるに、鶴が与へしに変はらずよく生ひいなければ、国の守へも奉りし。』と語れり。

東五郎なほその村その人をも尋ね聞けば、鶴を助けたる人は東五郎が縮を売りたる家なれば、すぐさまその家にいたり、なほ委しく聞きて、「さて國の土産にせん、穂を一二粒賜はれかし。」と乞ひければ、主人「越後は米のよき国と聞けばことさらに生ひなん。」とて、穂五六粒与へたるを國へ持ち帰りて事のよしを申して、邦君に奉りしを、御城内に植ゑしめたまひ、東五郎へ御褒賞などありし。

(「北越雪譜」から。)

(注) 天保＝江戸時代の年号。一八三〇～一八四四年。

小千谷＝新潟県中南部の地名。あとに出てくる「越後」は、現在の新潟県にほぼ相当する。

縮＝細かいしわのある夏向きの織物。

農人＝あとに出てくる「主人」と同じ人物。

人参＝薬用として使われるニンジン。

領主＝ここでは「農人」の住む村を治めている者。

國の守＝ここでは領国を治めている者。

穂＝もみがらがついたままの米。ここでは種子としてまくための種穂。

邦君＝「小千谷」を治めている者。

(ア)

——線1 「『よく養へ。』と仰せによりて」とあるが、その意味として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「領主」が「農人」に「米を大切に育てなさい。」とおっしゃったので
- 2 「領主」が「東五郎」に「鶴をしつかりと飼育しなさい。」とおっしゃったので
- 3 「領主」が「旅宿の主」に「鶴を急いで手当てしなさい。」とおっしゃったので
- 4 「領主」が「国の守」に「米を食べて体を大切にしなさい。」とおっしゃったので

(イ) ——線2 「鶴が与へしに変はらずよく生ひいければ」とあるが、その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「鶴」が授けた稻のように作ろうとしたところ、雑草が多く生えてきたということ。
- 2 「鶴」が運んできた稻にも関わらず、いつも作る稻と同じように伸びたということ。
- 3 「鶴」がもたらした稻と同じく立派に成長して、大量の稻の粒がついたということ。
- 4 「鶴」が持ちこんだ稻をご飯にして食べた人は、誰でも力がみなぎったということ。

(ウ) ——線3 「越後は米のよき国と聞けばことさらに生ひなん。」とあるが、その意味として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 越後は良い米を作るのに適した国と聞いていますので、何も世話をしなくても生えてくるでしょう。
- 2 越後は米の種類が多い国と聞いていますので、穀を今さら持ちこんでも注目されないでしょう。
- 3 越後は米の取り引きが盛んな国と聞いていますので、収穫したらさらにもうかることでしょう。
- 4 越後は良い米が多く生産される国と聞いていますので、苗を植えたら格別によく育つことでしょう。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「農人」は、田んぼのわなにかかった「鶴」を助けて介抱した結果、その恩返しとして「稻一莖」を手に入れて、人々に豊かな恵みを与えた。
- 2 「東五郎」は、「鶴」からもたらされた稻の話を聞きつけたことをきっかけに、その穀を手に入れて小千谷の地に持ち帰り、「邦君」にささげた。
- 3 「農人」は、ある宿に泊まって「旅宿の主」と話が弾んだことで、うつかりと稻の秘密を明かしてしまい、「穀五六十粒」を譲ることになった。
- 4 「東五郎」は、「旅宿の主」を通して貴重な稻の話を聞き、「農人」を訪ねてその穀を譲つてもらつたお礼に穀を渡したところ、大変喜ばれた。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

尋常小学校（旧学制の小学校）五年生の「浩二」は、同じ長屋で裁縫の仕事をしている「齋江」にかわいがられている。「浩二」の兄の「浩一」は、母親（「おかみさん」）とともに、魚屋を営んでいる。

（著作権上の都合により省略）

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(木内昇) 「よこまち余話」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 中学校Ⅱ当時の中学校は、修業年限が五年で、義務教育ではなく授業料が必要であった。

(ア) 本文中の [ ] に入る語句として最も適するものを、次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 疑わしそうに

2 恨めしそうに

3 煩うそうに

4 眇しそうに

(イ) ——線1「齧江は後先なく、『浩ちゃん!』と呼び止めた。」とあるが、そのときの「齧江」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 母親に説教されて腹が立つのはわかるが、長屋の人と口をきかない態度は不愉快であり、「浩三」に注意をしようとしたときに声をかけた。

2 母親に叱られて以来、気恥ずかしさからか普段と様子が違う「浩三」が気がかりで、どうしようという考えもないまま思わず声をかけた。

3 「浩三」が母親に怒られたことをきっかけに、自分のもとから離れてしまうのは寂しいので、言葉を何も用意せずにそのまま声をかけた。

4 「浩三」の中学校進学の希望を知り、他人が口をはさむ問題ではないが、母親に正直に話すことを勧めようとしためらいがちに声をかけた。

(ウ) ——線2「学帽をひよいとあげて会釈をし、幅跳びでもするような足取りで走って行つた。」とあるが、そのときの「浩三」の気持ちを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 人にうまく伝わらないようなことばかり考へていてはいる自分をどう扱つてよいか悩んでいたが、「齧江」が肯定的に受け止めてくれたので安心し、軽やかな気持ちになつていてる。

2 母親に叱られた出来事を忘れていたが、「齧江」に声をかけられて自分が手伝いをさぼった記憶がよみがえり、気恥ずかしさにその場から逃げ出したいと思つていてる。

3 自分のことを理解しない母親に腹を立てていたが、何も言わないので柔らかにうなずく「齋江」だけは、昔を懐かしんでいる自分の気持ちをわかつてくれたと感謝している。

4 家庭の経済状況を察して中学校に進学するべきかどうか悩んでいたが、「齋江」の言葉で家業を手伝う意志が固まり、未来への展望が開けた晴れやかな気持ちになつてている。

(イ) 一線 3 「軽口を叩き、カラカラ笑って帰つていった。」とあるが、そのときの「おかみさん」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「浩三」の学資について心配されていることを迷惑と思いながらも、無理に笑つてみせることで近所づきあいを大切にしようとしている。
- 2 人生には必ず抜け道があることや「浩三」のことを一番理解しているのは自分であることを示して、母親としての威厳を保とうとしている。

3 兄の「浩一」に魚屋を手伝わせている負い目と「浩三」の学資の問題から目を背けるために、百万長者の夢を見て現実から逃避している。

4 進学を切り出せずに悩む「浩三」の気持ちを受け止めつつ、厳しい家計の現実を前にくよくよしても仕方がないと明るく振る舞つている。

(オ) 一線 4 「あのさ、僕、母さんに言おうと思う。中学校に行かせてください、って頼んでみようと思う。」とあるが、ここでの「浩三」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 余分なものを全部こそげ落として核だけになつていく様を思い描きながら、これまでの迷いや悩みを振り払つた自分の強い意志を表すように読む。

2 生活のために魚屋を手伝う兄に申し訳ないと、夜桜に囲まれる眺めを「特等席」から思う存分味わつてもらいたいと兄をいたわるように読む。

3 兄には「特等席」を見つけるような才覚もないのに、自分が個性と才能を伸ばすために中学校に進学することとは当然であると宣言するように読む。

4 仕事を背負つている兄には風格が備わっていることを知り、自分も中学校への進学で多くの経験を重ねていこうとする決意を表明するように読む。

(カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「おかみさん」の独特的な言葉遣いや「長屋」「格子」「火鉢」など、昔懐かしい要素を取り入れることによって、人情豊かで伝統的な生活へのあこがれを描いている。
- 2 「浩三」が一人で抱える悩みを「渋い柿」に例えて、工夫次第でその難物が甘くなることを示しながらも、金銭的な困難を前に立ちすくむ母親の混乱を描いている。
- 3 思春期の「浩三」が進学を巡る葛藤を経て成長する姿を中心に、それを温かく見守る人々の様子を会話文を多用し、季節感を折りこみながら情緒豊かに描いている。
- 4 生き方に悩んでいる「浩三」が、長屋の「齋江」や家族に支えられながら次第に己の道を自覚して切り開いていく姿を、「浩三」自身の視点から細かく描いている。

問四 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(内山 節「半市場経済」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) コンプライアンス=法令などを守ること。

バブル期=一九八〇年代後半から一九九〇年代初頭に地価等が実態とかけ離れて高騰した時期。

NPO=社会的活動をする非営利の民間組織。

セミナー=知識や技能などを身に付けるために行う会。

コミュニティ=地域社会や共同体。

フェアトレード=発展途上国の農産物や品物などを適正な価格で継続的に購入する取り組み。

カウンター・カルチャー=主流となつてゐる文化に対抗する文化。

(ア) ━ 線1 「経済は根源的な社会性を保持していない。」とあるが、その理由として最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ある産業の誕生で別の産業が落ち込むのは必然であり、生活のすべてをインターネットに頼れば、流通小売業はなくとも済むから。

- 2 社会のすべてのものは必要に迫られてあとからつくりだされただけで、ある種の製造業も実は社会性を有していると言えないから。

- 3 私たちの社会の多くのものは、それぞれの論理でつくりだされただけで、社会的な必要性によつて生みだされたものではないから。

- 4 経済は生活を便利にするが、スーパーやコンビニの普及は都市に限られており、農山漁村にはその恩恵がもたらされていないから。

(イ) ━ 線2 「近代的な世界がつくりだしたバラバラな論理は、経済や労働を虚しいものにしてしまった」とあるが、その理由として最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 近代においては経済が人間の労働や社会などと結びついておらず、人々は社会に役立つてゐるという実感を得られなくなつたから。

- 2 近代においては機械化が進んで個人が有している才能は次第に必要なくなり、人々は働くことへの意味をとらえられなくなつたから。

- 3 近代においては企業の暴走をきっかけにして経済の論理が生活と切り離され、人々は働くことへの意欲を持てないようになつたから。

- 4 近代においては労働の論理に世界が支配され、有意義な労働が消滅したことで、人々は自己実現の場を見いだせなくなつたから。

(ウ) ━ 線3 「経済に一定の倫理性を要求する」とあるが、その説明として最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 社会にとつて企業が必要であると認められるには、法令などを守り、そこで働く人々にも社会性を身に付けさせることが求められているということ。

- 2 社会において経済を活性化させるためには、経済の動きを視覚的に整理して人の配置や品物の流れを再構築することが求められているということ。

3 経済を市場の論理だけで展開するのではなく、社会のなかの一つの要素として経済がどうあるべきかを考えなおすことが求められているということ。

4 経済の独自の論理を展開するなかで、行きすぎた開発を見なおして、環境の保全と人々の利便性との両立を図ることが求められているということ。

(エ) —線4「大企業が強い支配権をもつた」とあるが、その説明として最も適するものを次の中から

一つ選び、その番号を答えなさい。

1 大企業が裾野の広い中小企業を組織化することによって、経済のあり方と社会の創造を一体化させるよう世界を再構築していくたということ。

2 多くの人たちが農業や街の商店、職人などの自営の仕事を離れ、中小企業も下請となることで大企業のもとに組み込まれていったということ。

3 消費者に必要な製品をつくりだす目的から、大企業が強い影響力をもつことで熟練の職人が育てられ、中小企業の裾野が広がったということ。

4 大企業が資本と土地を一手に握ることにより労働への支配力を増し、そこに組織化されまいとする自営業の人々の抵抗が強まつたということ。

(オ) —線5「このような動き」とあるが、それはどのような動きか。次の①、②の条件を満たした一文で書きなさい。

① 文末の **動き。** という語句につながるように四十五字以上五十五字以内で書くこと。文末は、文字数に含めないこと。

② 「役割」「営み」という二つの語を、どちらもそのまま用いること。

(カ) —線6「『多様な経済』『労働のかたちづくり』が試みられている。」とあるが、その具体的な内容と

して合っていないものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 農山漁村において都市からの移住者だけでコミュニティを作り、自営業を行おうとしていること。

2 自然環境を維持する目的のために、環境教育のセミナーを有料化して事業として展開させること。

3 山のなかの集落の人々がレストランを共同経営することで、地域社会や共同体を守っていくこと。

4 発展途上の国と自分たちの社会づくりのために、途上国の品物などを適正な価格で購入すること。

(キ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 物質的な豊かさに適応した社会構造が生まれていることに着目し、便利な生活のために大企業に限らず中小企業も含め「多様な経済」を展開していく意義を、経済用語を多用しながら述べている。

2 システムに組み込まれた労働の虚しさに着目し、自然と向き合う労働のなかにこそ人間の生きがいがあることをふまえて経済と労働の関係を見なおす必要性を、社会の動きを追いかながら述べている。

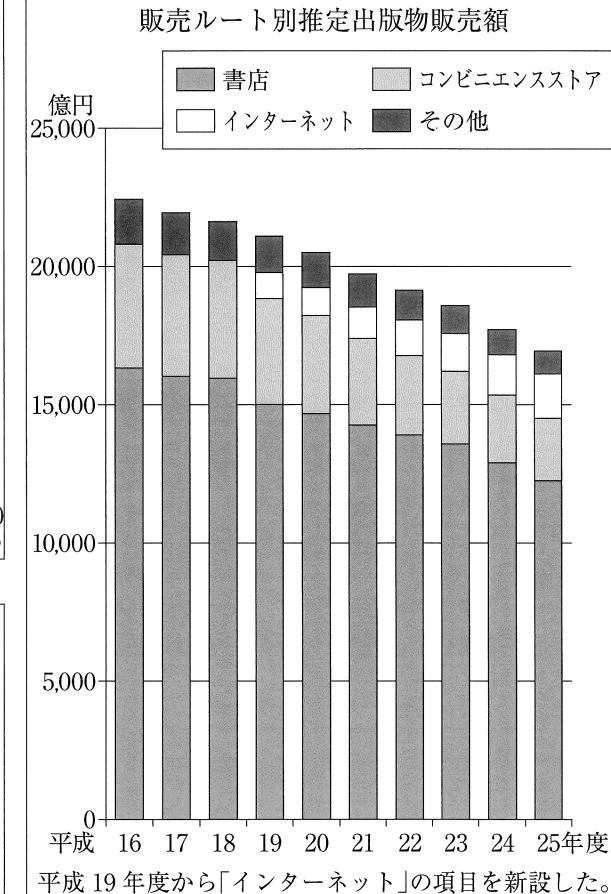
3 市場の論理が人間相互のつながりを壊してきた歴史に着目し、かつてあつた信頼感を取り戻すために、「半市場経済」を開拓していくことの必要性を、自分の体験を織り込みながら述べている。

4 経済の論理と社会の論理の食い違いに着目し、人間が社会的有用感をもつて働くことができるようになれば、経済のかたちを社会のあり方と一体化させる意義を、具体的な事例を紹介しながら述べている。

問五

中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」に読書の現状と課題について調べ、話し合いをしている。次のグラフ1、グラフ2、グラフ3と文章は、そのときのものである。これらについてあとどの問い合わせに答えなさい。

グラフ1



(グラフ1)

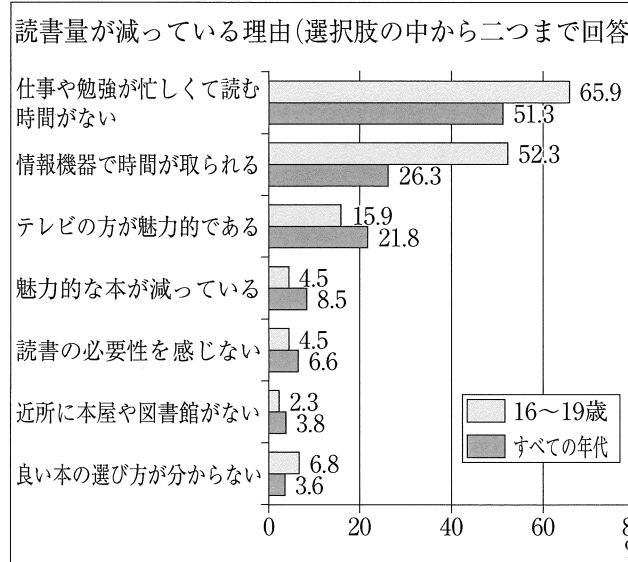
日本出版販売株式会社「2014 出版物販売額の実態」より作成。

(グラフ2, グラフ3)

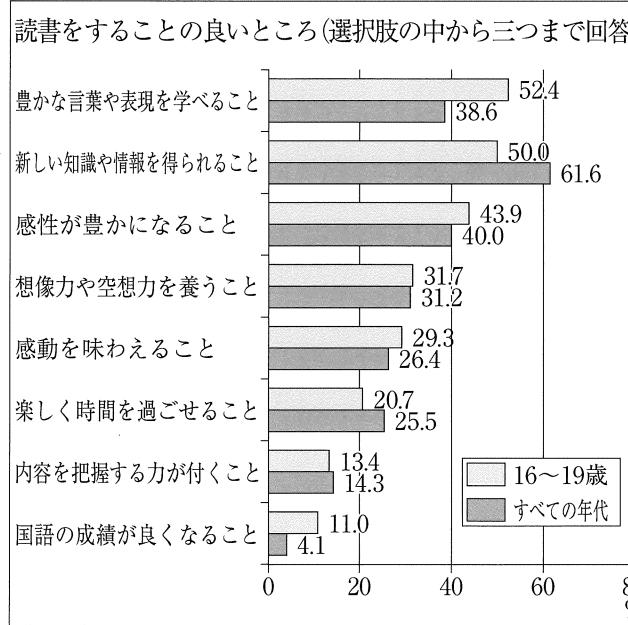
文化庁「平成 25 年度 国語に関する世論調査」より作成。

グラフは、16～19歳の年代の割合と16歳以上のすべての年代の割合を比較したものである。

グラフ2



グラフ3



Aさん

それにもかかわらず、なぜ一ヶ月に本を全く読まない人が多いのでしょうか。

Cさん つまり、本の販売額と世論調査の結果を見る限り、「読書離れ」の現状があると言えるようですね。

Dさん ところが、そもそも言えないようなのです。同じ世論調査の「読書量を増やしたいと思うか」という項目によると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた肯定的な回答は、十六～十九歳で七十九・三パーセント、すべての年代で六十六・三パーセントもいるそうです。

Bさん それは多いですね。それに関連してグラフ1は、販売ルート別に本がどのくらい売れたかについて金額を表したものですが、これを見ると、本の購入の仕方やそれぞれの販売額を把握できます。

平成19年度と平成25年度を比較してみると□Iということが分かります。

Dさん グラフ2「読書量が減っている理由」の項目として、「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」と答えた人が、十六～十九歳で六十五・九パーセントと一番多くなっています。また、グラフ2で、十六～十九歳とすべての年代とを比較したとき、数値の差が□Ⅱという項目でした。

Bさん 今のDさんの指摘をふまえると、私たち若い年代の読書における課題を解決するためには、情報機器とうまくつきあつて本を読む時間を確保することが必要になつてくると言えるでしょう。

Cさん 同じくグラフ2からは、すべての年代と比べて私たち若い年代には「良い本の選び方が分からない」という課題があることが分かります。その課題を解決するためには、学校図書館など自分の身近な読書環境を積極的に活用することも重要です。

Bさん 一方、グラフ3「読書をすることの良いところ」の項目を見ると、「豊かな言葉や表現を学べること」や「新しい知識や情報を得られること」を選んでいる人が多いということが分かりました。

Dさん 読書には、たくさん良いところがあるということですね。このことから、私たちは、もっと読書のすばらしさを実感することが大切であると考えます。

Aさん ここまで、読書の現状と課題について話してきましたが、私たちが考えなければならないことにについては、Bさん、Cさん、Dさんがまとめてくれたように思います。それらをふまえ、読書における課題を解決するために大切なことを改めて整理すると、

「私たちは、  
大切なことになります。」

(ア) 本文中の□I・□IIに入れるものとして最も適するものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- I  
1 「書店」の販売額が大幅に減少していることに伴い、全体の販売額は約四割減っている  
2 「コンビニエンスストア」での販売額が増えていることに伴い、全体の販売額は約三割減っている  
3 「インターネット」での販売額は増えているものの、全体の販売額は約二割減っている  
4 「その他」の販売額は横ばいであり、全体の販売額もほとんど変わりがない
- II  
1 一番大きいのは「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」  
2 一番大きいのは「情報機器で時間が取られる」  
3 一番小さいのは「テレビの方が魅力的である」  
4 一番小さいのは「読書の必要性を感じない」

(イ) 本文中の□□□に適する「Aさん」のことばを、次の①～③の条件を満たした一文で書きなさい。

- ① 書き出しの「私たちは」という語句に続けて書き、文末の「大切である。」という語句につながるように書くこと。
- ② 書き出しと文末の語句の間の文字数が六十五字以上七十五字以内となるように書くこと。
- ③ 「読書における課題を解決するために大切なこと」について三つの点に触れていること。

(問題は、これで終わりです。)